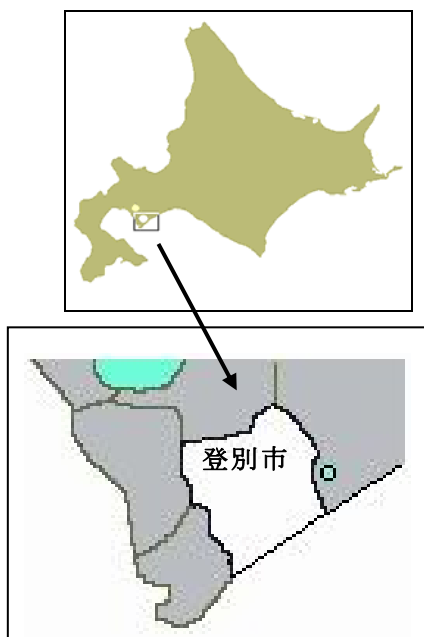


## 第2章 高齢者等の現状

### 第1節 登別市の概況



アイヌ語の「ヌプルペツ（色の濃い川の意）」に名前を由来する登別市は、北海道の南西部、胆振支庁管内のほぼ中央部に位置し、面積 212.11 k m<sup>2</sup>を有し、東西に 18.5 km、南北 22.6 km に広がっており、形状はほぼひし形を呈しています。市の南東部は太平洋に面し、北部は支笏洞爺国立公園に包含された全国的に有名な登別温泉・カルルス温泉が湧出しており、四季折々の自然景観に恵まれたまちです。

道央自動車道などインフラの整備が着実に進んだために温泉施設やテーマパークなどの娯楽施設へのアクセスが容易になり、登別への観光客は平成19

年度で約330万人にのぼっています。

登別市は、「人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ」をキャッチフレーズにやさしさと共生するまちづくりを進めており、やすらぎに満ちた暮らしを営めるような高齢社会にふさわしい基盤整備に努めているところです。

## 第2節 人口構成・高齢化の推移

### 1 日本の高齢化の現況

我が国の高齢化は、昭和45年の国勢調査で高齢化率（総人口に占める65歳以上の人口の割合）が7%を超えたことで、高齢化社会への入口に立ちました。その後も、毎年、平均0.25ポイントの割合で高齢化率は伸び、平成6年には「高齢社会」といわれる14%を超えました。

高齢化が進んだ背景には、戦後の高度経済成長と軌を一にした医療や保健衛生技術の進歩により、平均寿命が伸びたことや、女性の社会進出など社会環境の変化によって少子化が進んだことなどが考えられます。

平成17年10月に実施した国勢調査や人口動態統計から、日本の総人口はすでにピークに達しており、現在人口は減少に転じているとされていますが、国立社会保障・人口問題研究所によると、高齢化率は上昇を続け、平成47年（2035年）には33.7%に達し、3人に1人が高齢者になると見込まれ、さらに、平成67年（2055年）には40.5%に達する見込みであり、2.5人に1人が高齢者になると予想されています。

### 2 登別市の高齢化の状況

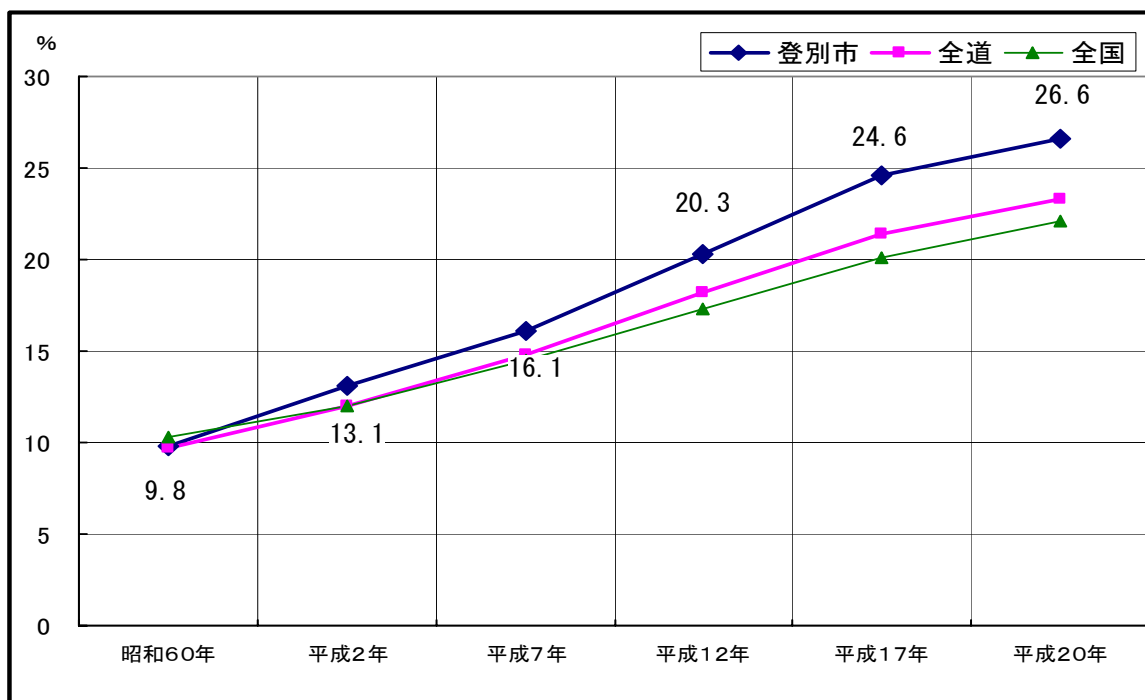
登別市の総人口は、昭和45年の46,526人から堅調に増加し、昭和58年の59,481人をピークに、以後人口の減少が続いており、平成20年9月末日現在では52,926人となっています。

一方、65歳以上の高齢者人口は、昭和45年の2,063人から平成20年9月末日現在の14,080人まで増加を続け、昭和45年に全国や全道より低かった市の高齢化率が、平成に入ってから全国や全道を上回る状況になっております。平成9年以降の市の高齢化率の推移は、年平均0.8ポイント以上の伸びがあることから、市の64歳以下の人口が大きく増加しない限りこの傾向は変わることはなく、今後も市の高齢化は進むことが予想されます。

【40歳以上人口及び高齢化率の推移】

年次	人口(人)					高齢化率(%)		
	総人口	40歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	登別市	全道	全国
昭和60年 (1985)	58,370	25,699	5,697	3,283	1,623	9.8	9.7	10.3
平成2年 (1990)	55,571	28,516	7,293	4,492	2,342	13.1	12.0	12.0
平成7年 (1995)	56,892	31,358	9,149	5,977	3,433	16.1	14.8	14.5
平成12年 (2000)	54,761	32,115	11,097	7,463	4,565	20.3	18.2	17.3
平成17年 (2005)	53,135	32,463	13,065	9,158	5,783	24.6	21.4	20.1
平成20年 (2008)	52,926	32,491	14,080	9,978	6,369	26.6	23.3	22.1

【高齢化率の推移】



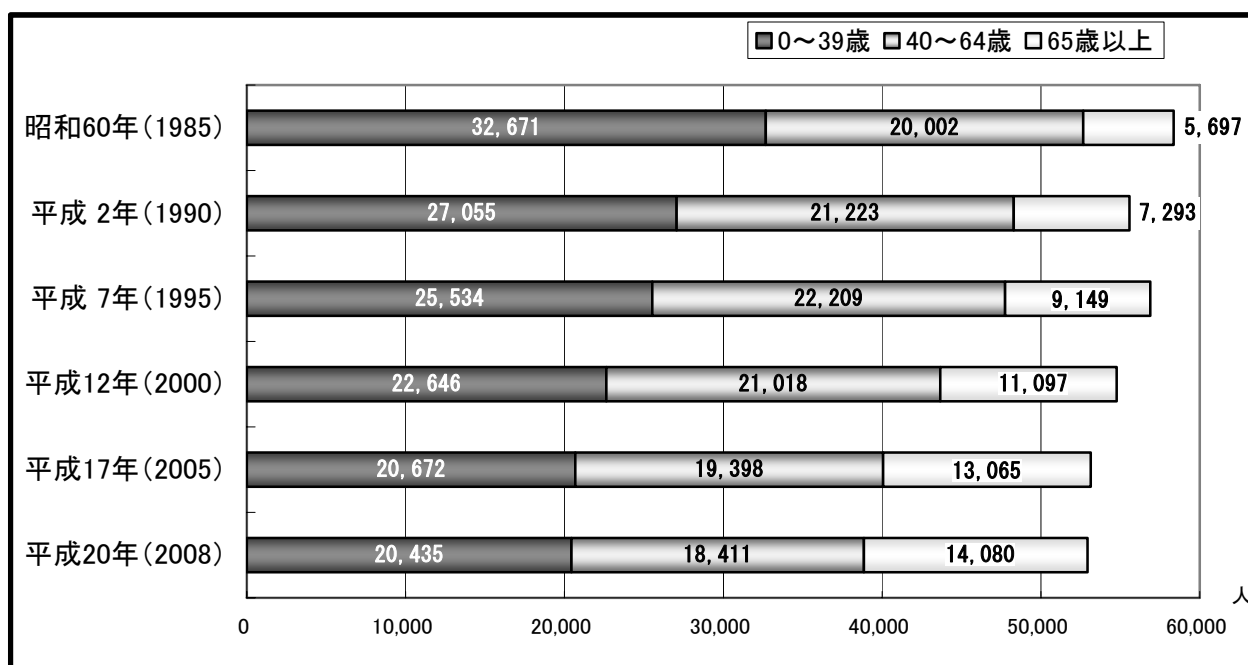
※ 平成17年までは国勢調査結果、平成20年は住民基本台帳人口(9月末日現在)  
 ※ 高齢化率(%) = (65歳以上人口 ÷ 総人口) × 100

## 第2章 高齢者等の現状

### 【人口の推移（年齢階層別）】

区 分	総人口	0～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
昭和 60 年 (1985)	58,370	32,671	20,002	5,697
平成 2 年 (1990)	55,571	27,055	21,223	7,293
平成 7 年 (1995)	56,892	25,534	22,209	9,149
平成 12 年 (2000)	54,761	22,646	21,018	11,097
平成 17 年 (2005)	53,135	20,672	19,398	13,065
平成 20 年 (2008)	52,926	20,435	18,411	14,080

### 【人口の推移（年齢階層別）】

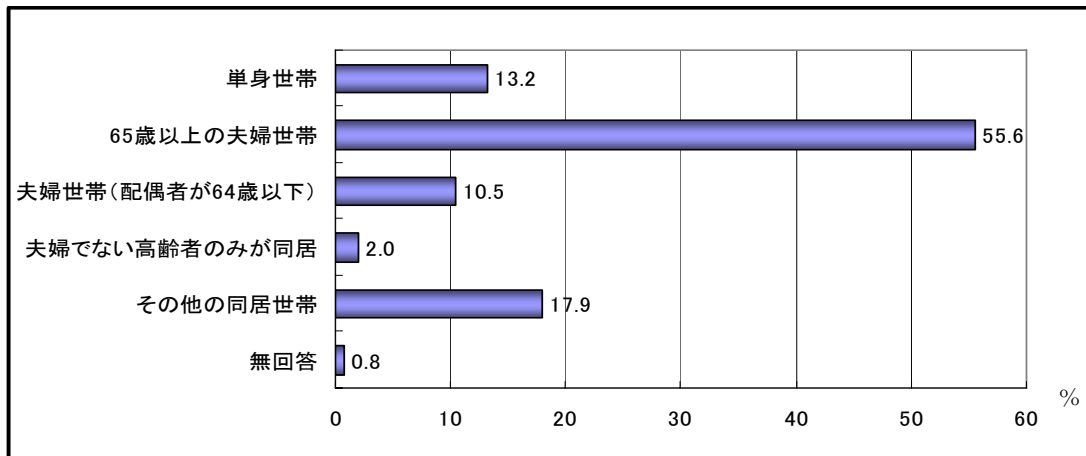


※ 平成17年までは国勢調査結果、平成20年は住民基本台帳人口（9月末日現在）

### 3 高齢者一般調査の結果

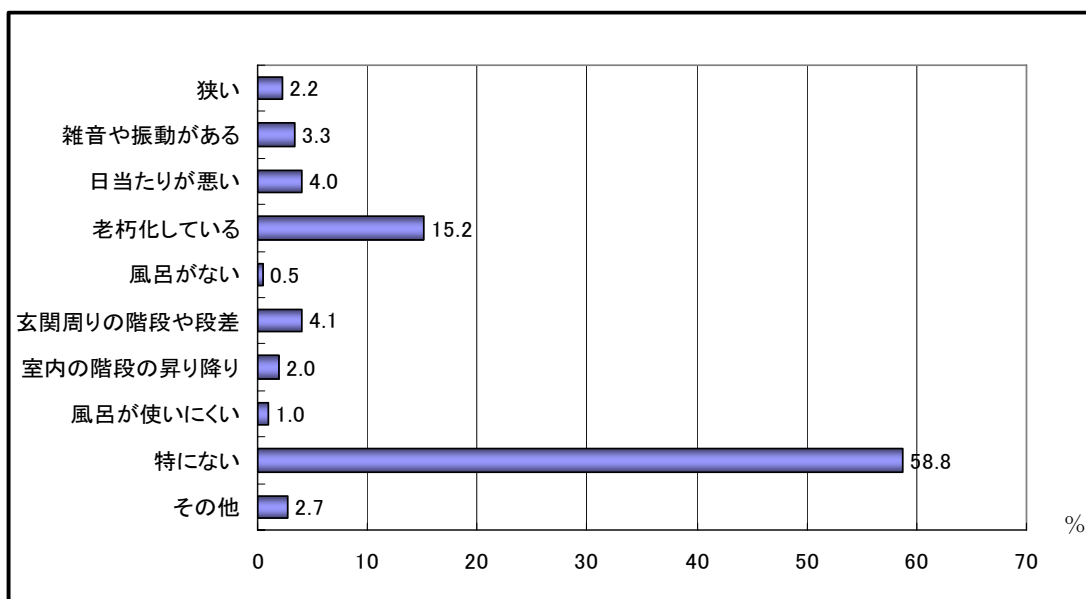
#### (1) 高齢者のいる世帯の家族状況

高齢者のいる世帯の家族構成を見てみると、「高齢者単身世帯と高齢者夫婦世帯」が半数以上を占めていることから、介護が必要となった場合は、家族だけで介護を看ることは限界があるものと考えられます。



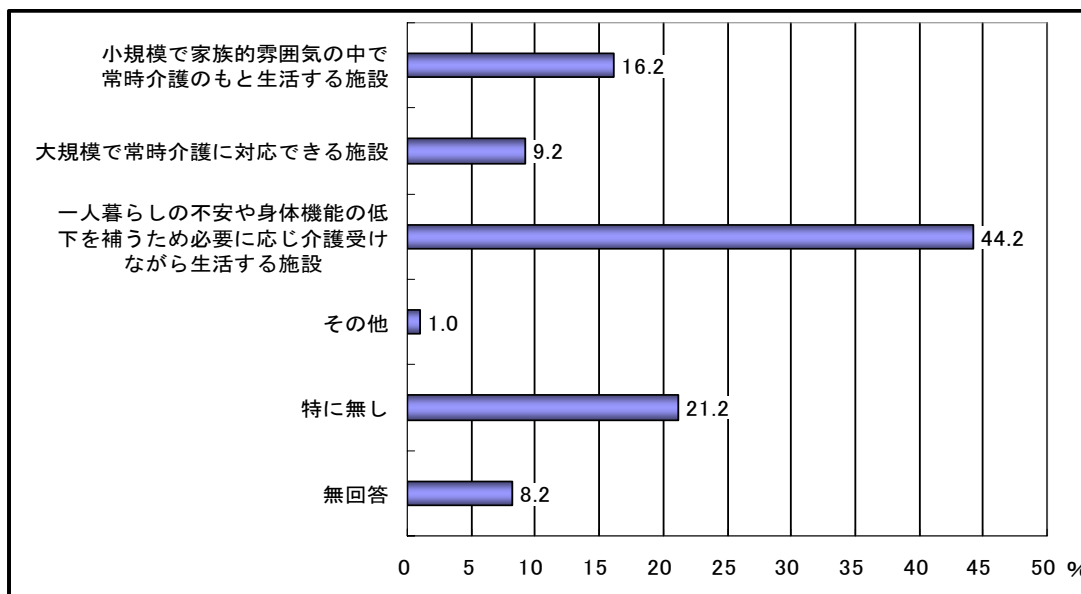
#### (2) 現在の住まいでお困りのこと

現在住んでいる住宅で困っていることについては、「特にない」と答えた人が6割近くですが、「老朽化している」「玄関周りの階段や段差」「日当たりが悪い」という回答が上位に挙がっていることから、老朽化しているが建て替えていない住居が多いと考えられます。



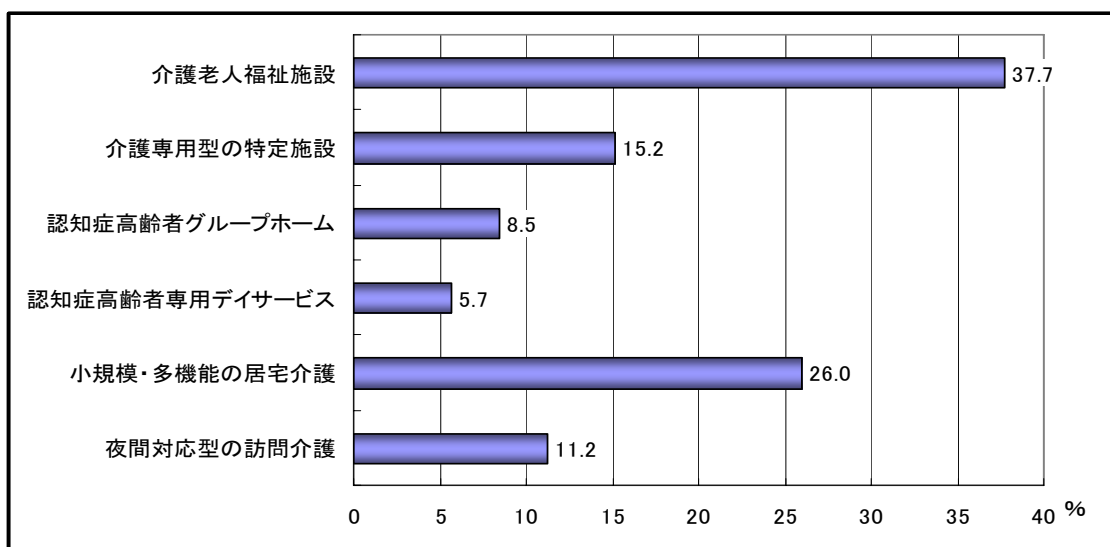
(3) 高齢者だけの生活が困難になった時の希望する住まいの形態

「一人暮らしの不安や身体機能低下を補うため、必要に応じ介護を受けながら生活する施設」が44.2%と最も多く、次いで「小規模で家族的雰囲気の中で常時介護のもと生活する施設」が16.2%となっており、大規模な施設より介護が受けられる小規模な施設が求められています。

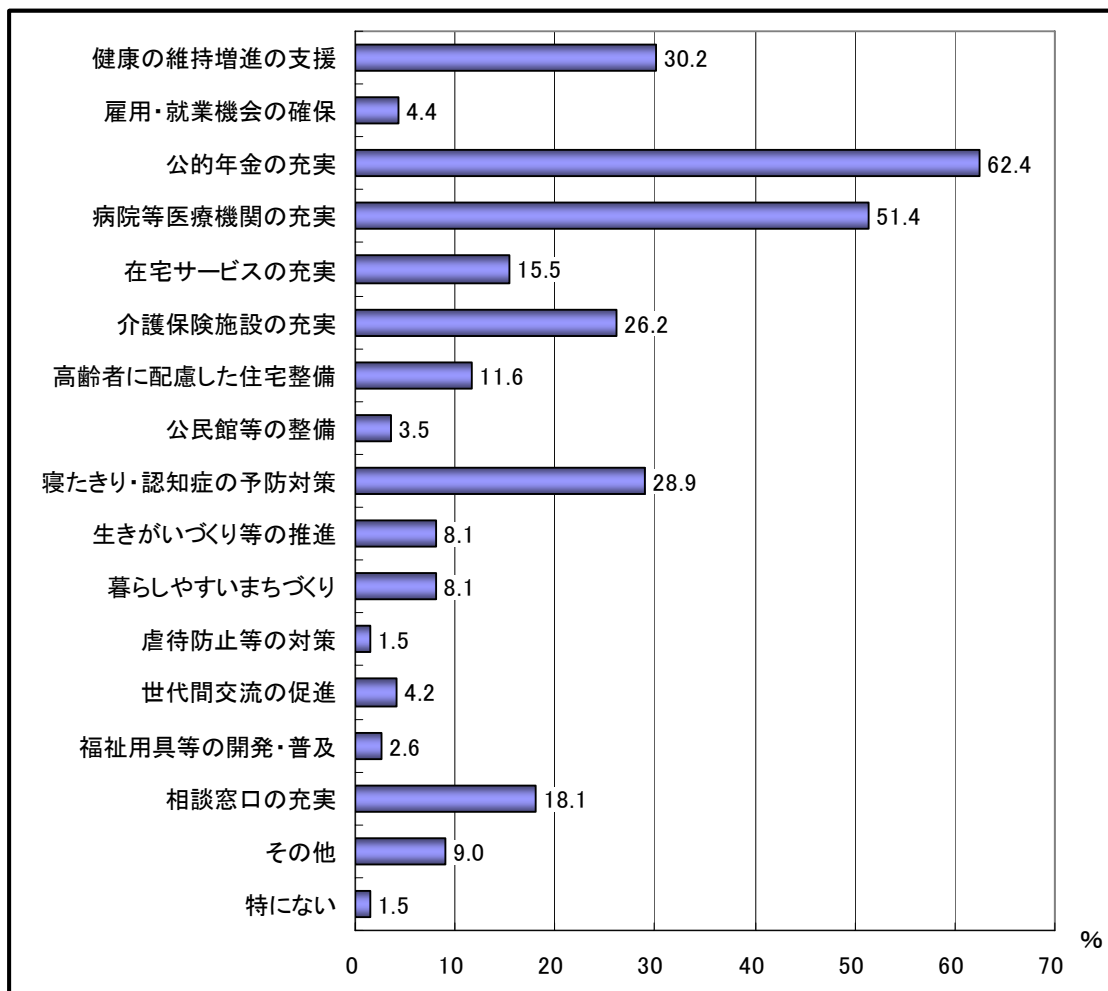


(4) 地域密着型サービスについて（複数回答）

「小規模特別養護老人ホーム」37.7%と最も多く、次いで「小規模多機能型の居宅介護」が26.0%となっています。

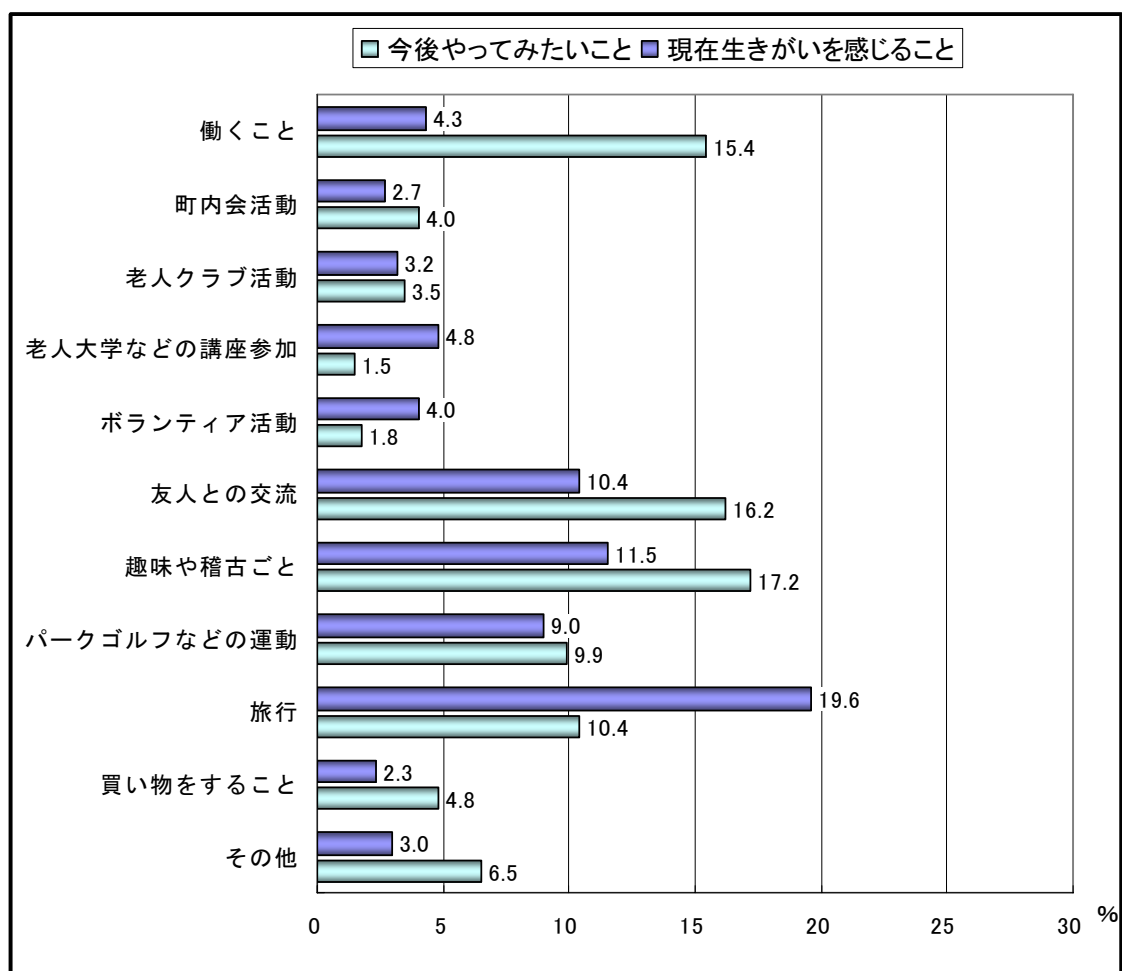


(5) 高齢期を快適に暮らすため、必要と思う施策（複数回答）  
 「公的年金の充実」62.4%と最も高く、次いで「病院等医療機関の充実」51.4%「健康の維持増進の支援」30.2%「寝たきり・認知症の予防対策」28.9%「寝たきり・認知症の予防対策」28.9%となっています。



(6) 生きがいについて

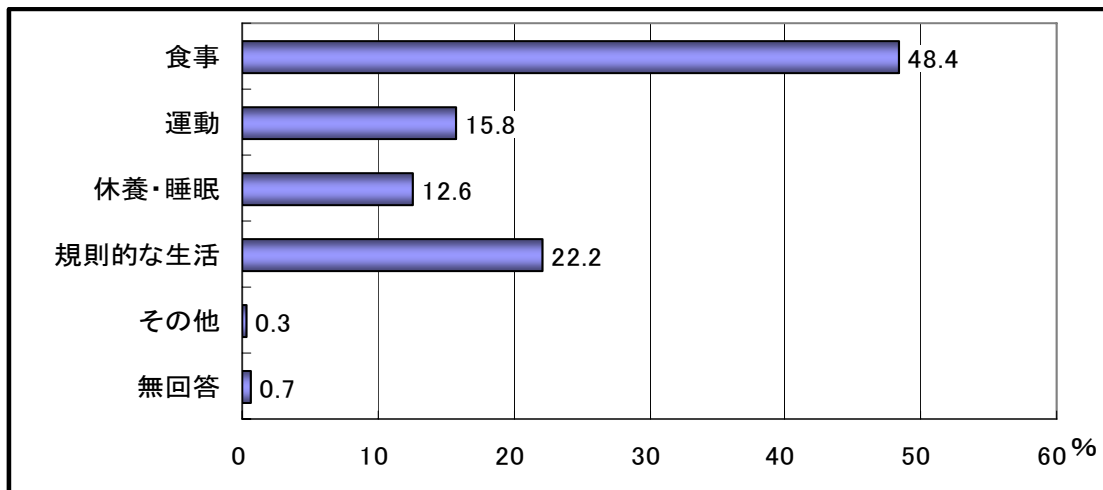
現在生きがいを感じることは、「旅行」19.6%、「趣味や稽古ごと」11.5%、「友人との交流」10.4%となっています。今後やってみたいことについては、「趣味や稽古ごと」17.2%、「友人との交流」16.2%、「働くこと」15.4%となっており、これらのことから、閉じこもりがちになるのではなく、積極的に外に出ることと交流に生きがいを見出していると考えられます。





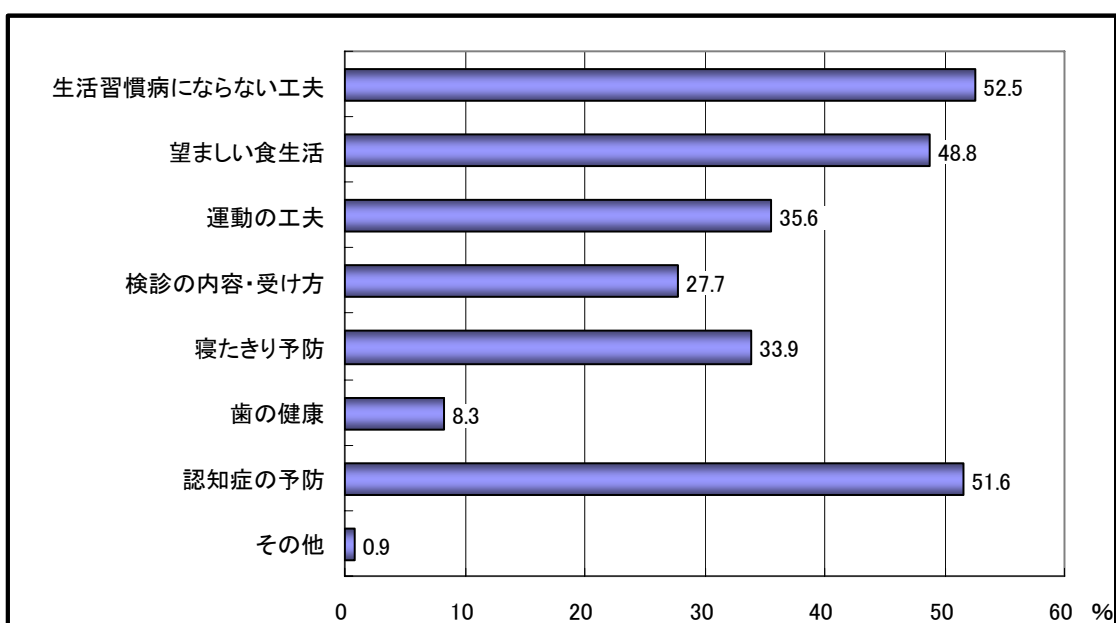
(7) 普段健康について特に気を使っていること

最も多かったのは、「食事」48.4%、次いで「規則的な生活」22.2%となっています。



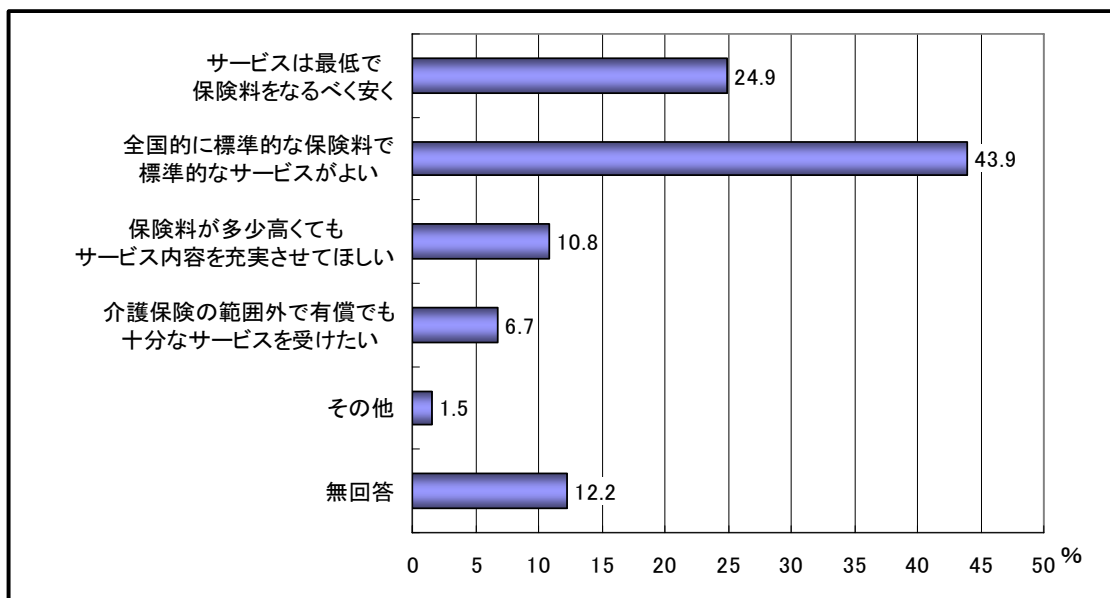
(8) 健康について知りたいこと (複数回答)

最も多かったのは、「がんや糖尿病など生活習慣病にならないための工夫」52.5%、次いで「認知症の予防」51.6%、「望ましい食生活」48.8%の順となっています。



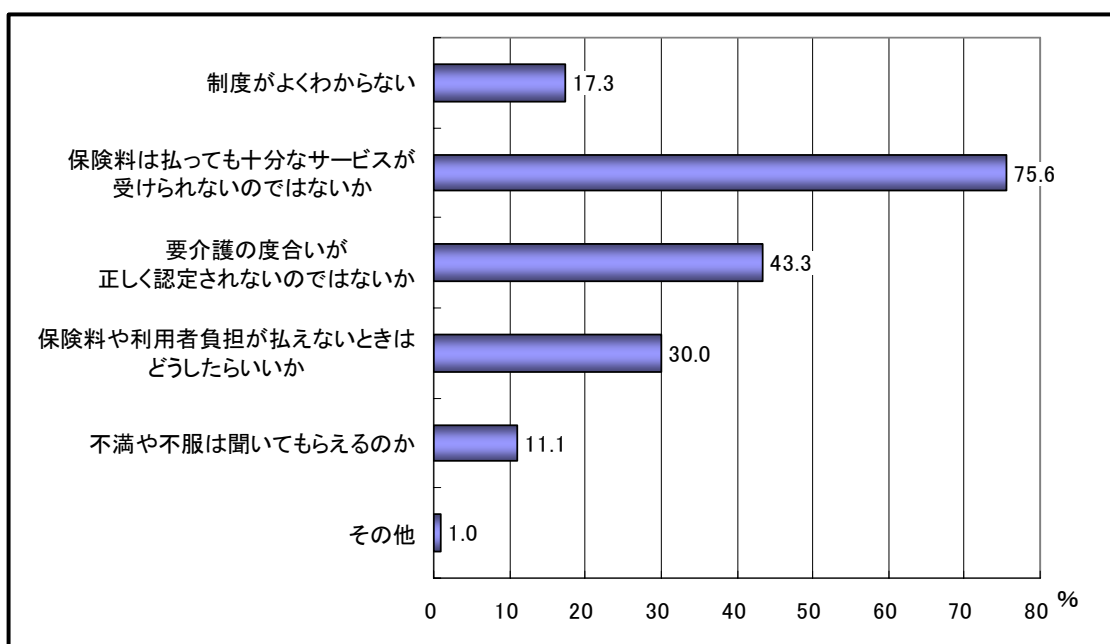
(9) 介護サービスと自己負担について

「全国的に標準的な保険料で標準的なサービスがよい」と回答した人がもっとも多く、次いで「サービスは最低限で保険料をなるべく安く」と回答した人の割合が高くなっています。



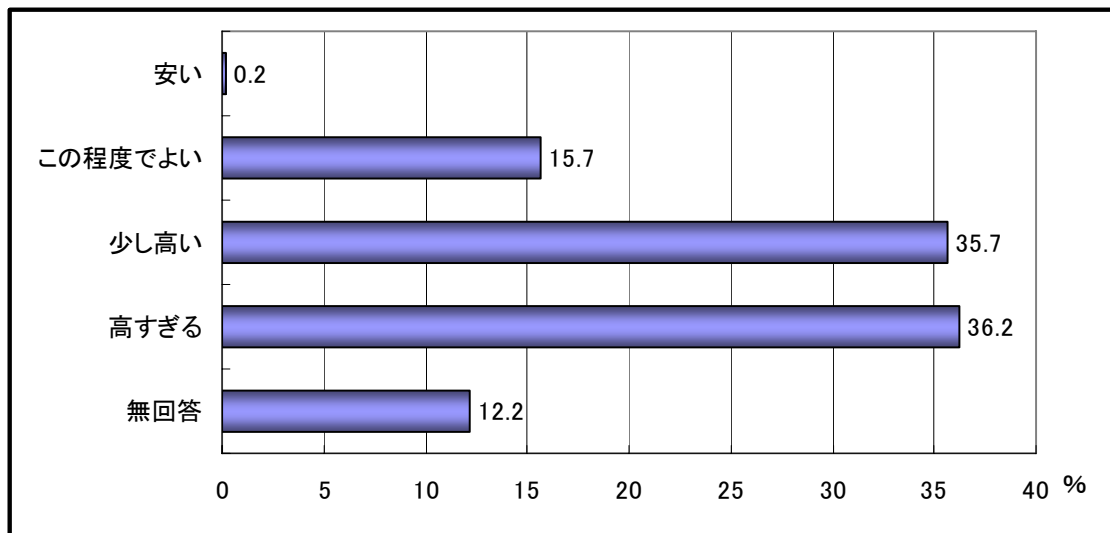
(10) 介護保険についての不安点（複数回答）

「保険料は払っても十分なサービスが受けられないのではないか」と回答した人がもっとも多く、次いで「要介護の度合いが正しく認定されないのではないか」「保険料や利用者負担が払えないときはどうしたらいいか」と続いています。

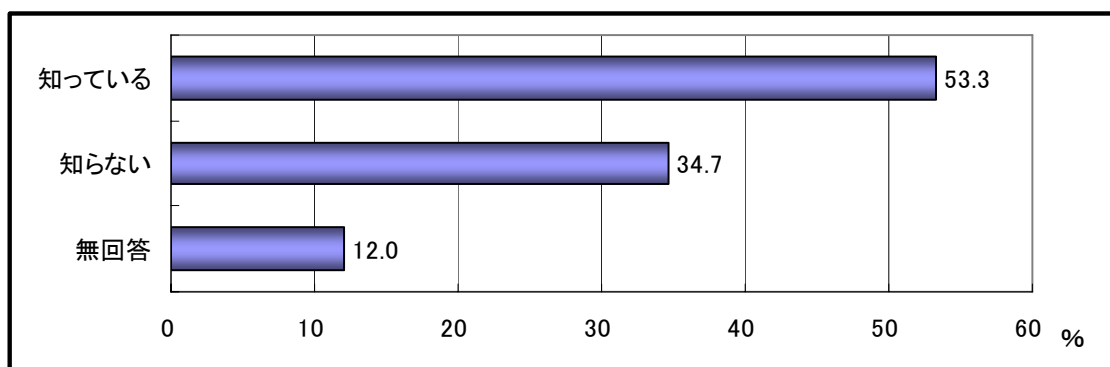


(11) 保険料の負担感

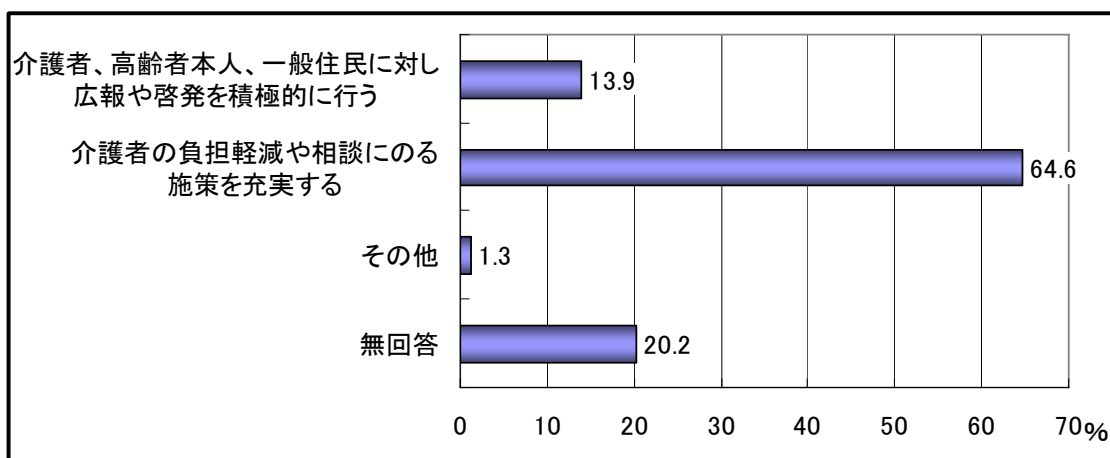
「高すぎる」と回答した人が36.2%でもっとも多く、次いで「少し高い」が35.7%となっています。



(12) 高齢者虐待とはどのようなものか知っていますか  
半数を超える53.3%が「知っている」と回答しています。

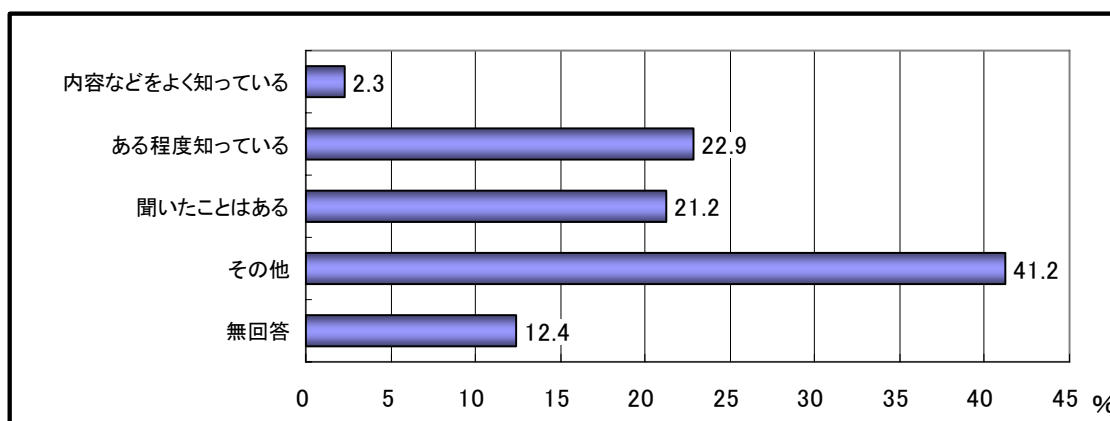


(13) 高齢者虐待を解決するために、何が一番必要だと思いますか  
回答者のうち「介護者の負担軽減や相談にのる施策を充実する」と回答した人が64.6%と最も多くなっています。



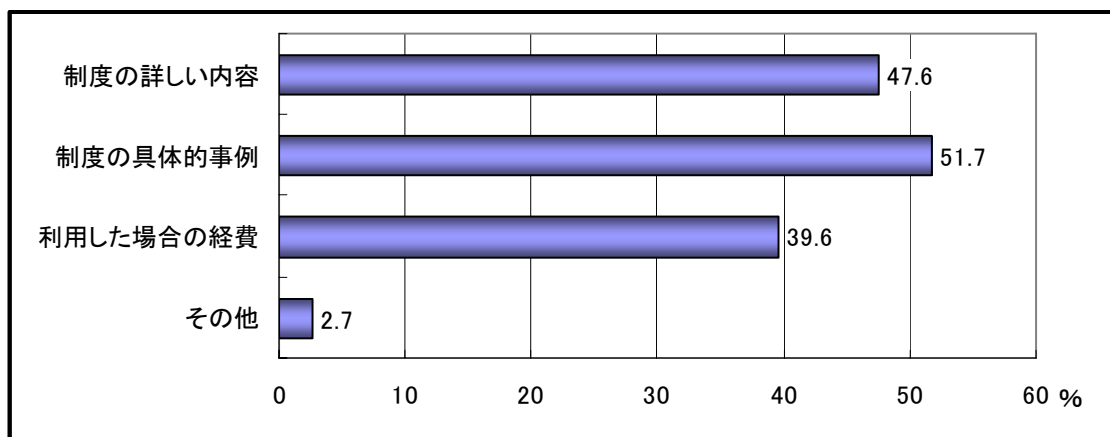
(14) 成年後見制度を知っていますか

「内容などをよく知っている」と回答した人は2.3%であり、「ある程度知っている」と回答した人と合わせると25.2%になります。



(15) 成年後見制度に関してどのような情報があればよいと思いますか（複数回答）

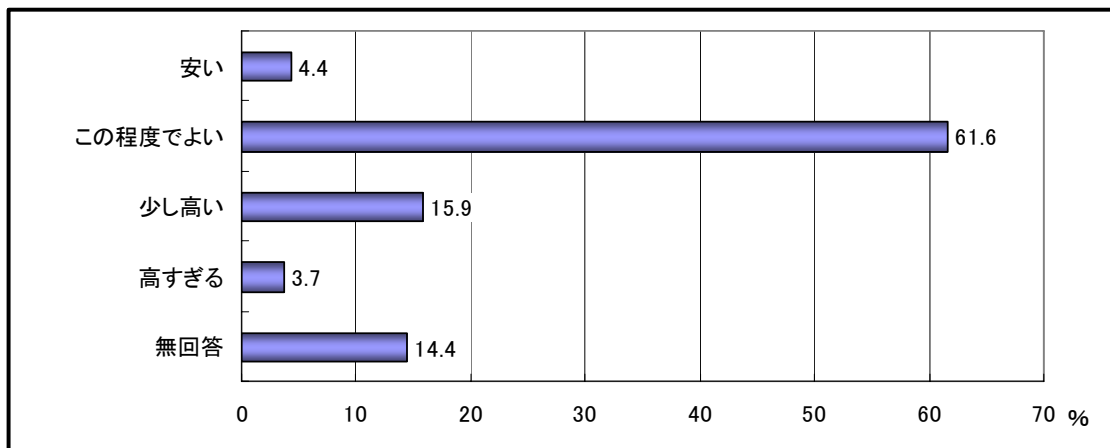
「制度の具体的事例」と回答した人が51.7%、「制度の詳しい内容」と回答した人が47.6%などとなっています。



4 要介護認定者調査の結果

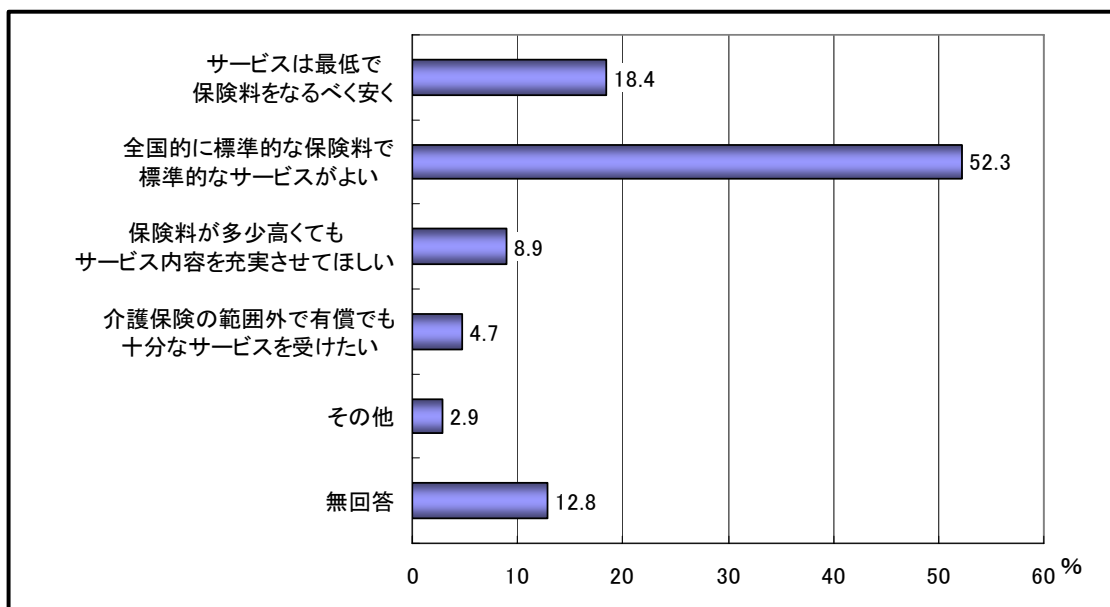
(1) 利用料の1割負担について

「この程度でよい」と回答した人がもっとも多く、「安い」と回答した人と合わせると過半数を大きく超える結果となっています。



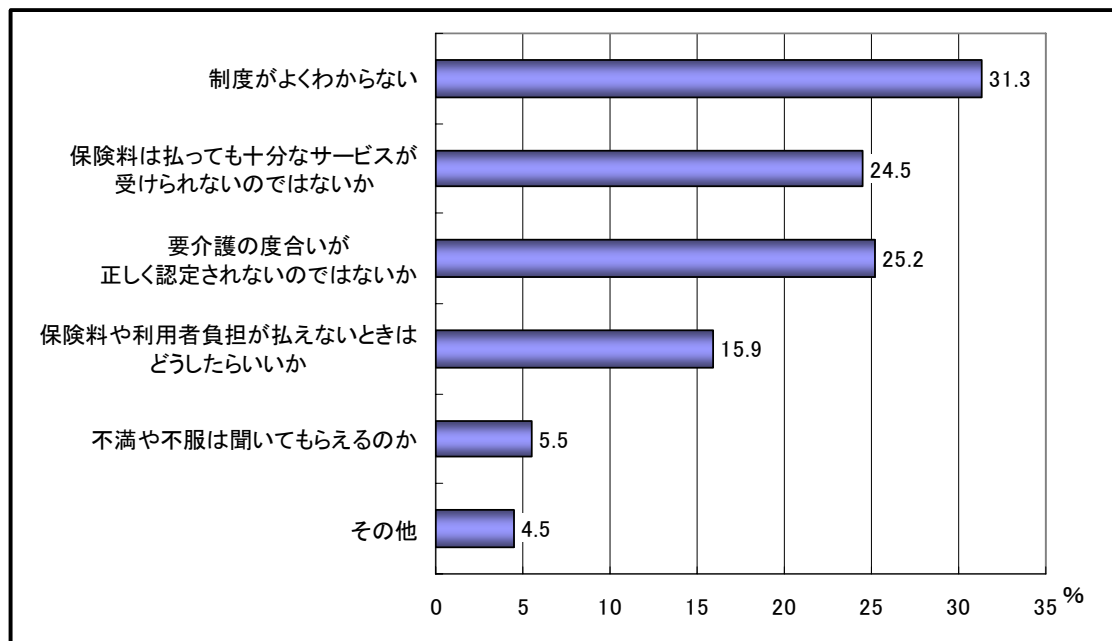
(2) 介護サービスと自己負担について

「全国的に標準的な保険料で標準的なサービスがよい」と回答した人がもっとも多く、次いで「サービスは最低限で保険料をなるべく安く」と回答した人の割合が高くなっています。



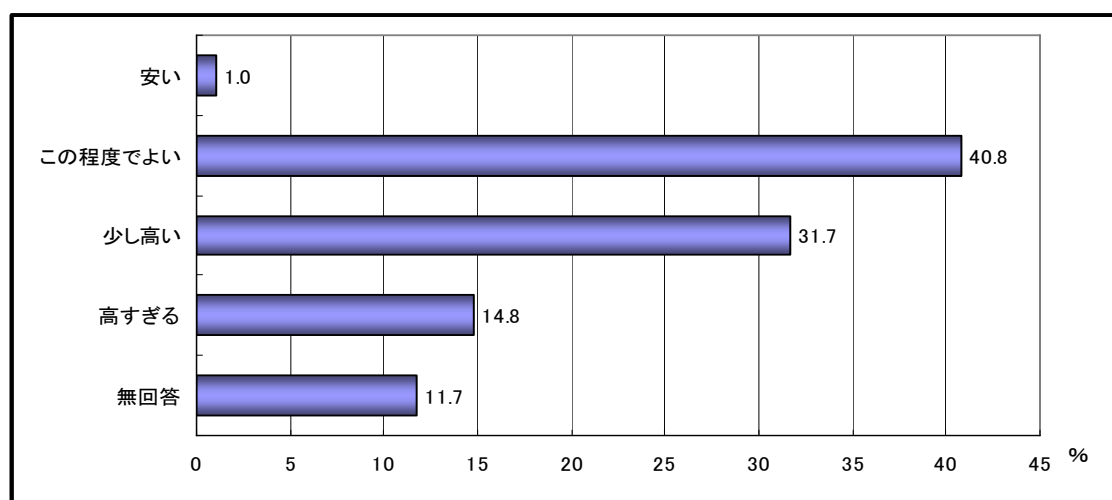
(3) 介護保険についての不安点（複数回答）

「制度がよくわからない」と回答した人がもっとも多く、次いで「要介護の度合いが正しく認定されないのではないか」「保険料は払っても十分なサービスが受けられないのではないか」と続いています。



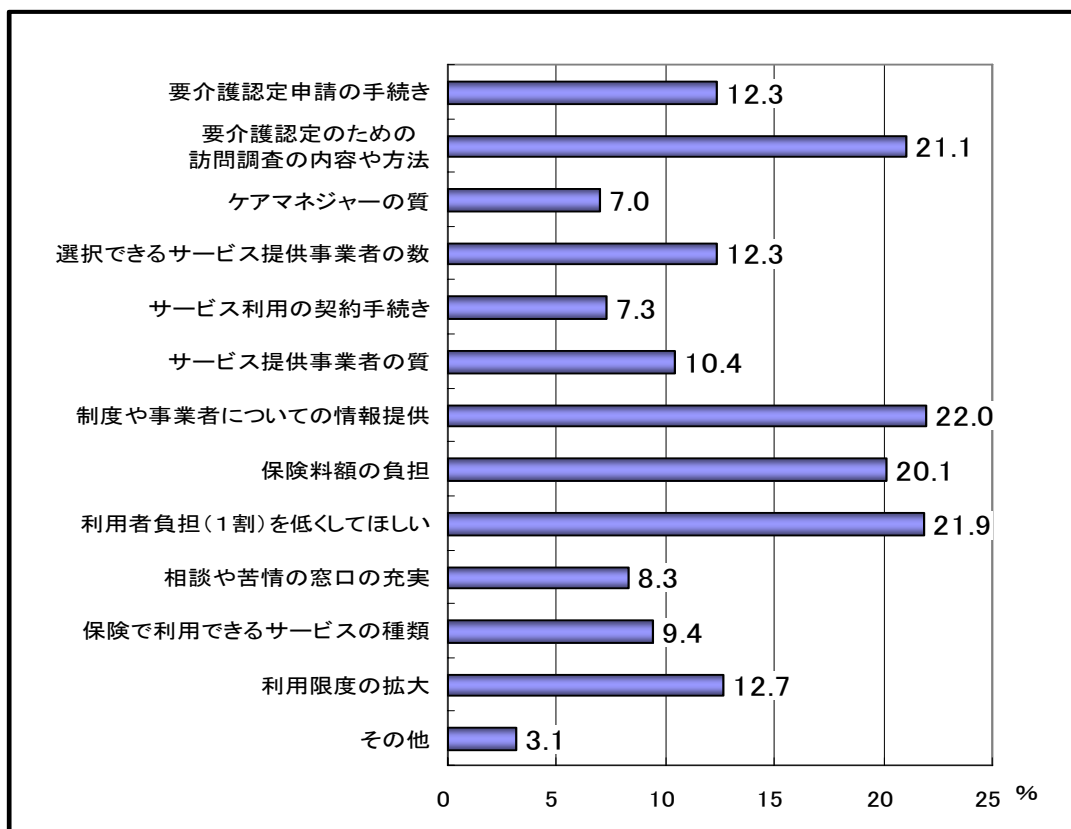
(4) 保険料の負担感

「この程度でよい」と回答した人がもっとも多く、次いで「少し高い」と回答した人の割合が高くなっています。



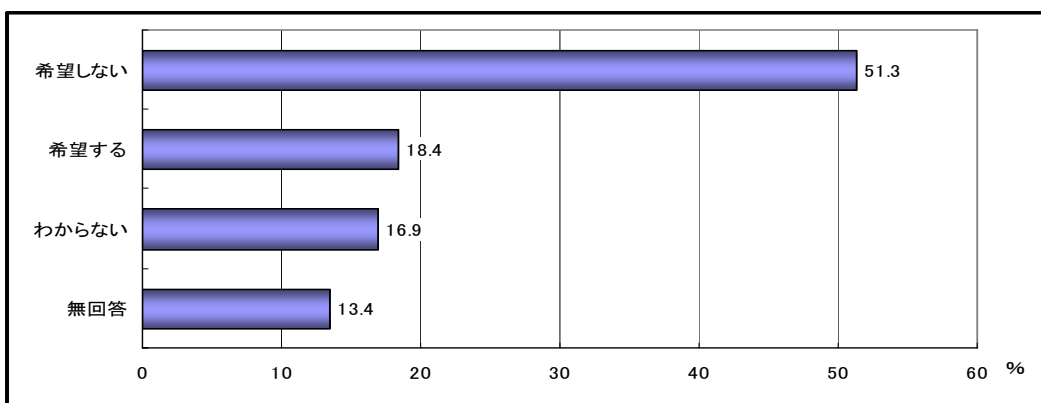
(5) 制度をより良くするための改善点（複数回答）

「制度や事業者についての情報提供」と回答した人が22.0%と最も多く、「利用者負担（1割）を低くしてほしい」が21.9%、「要介護認定のための訪問調査の内容や方法」が21.1%などとなっています。



(6) 施設等への入所を希望するか

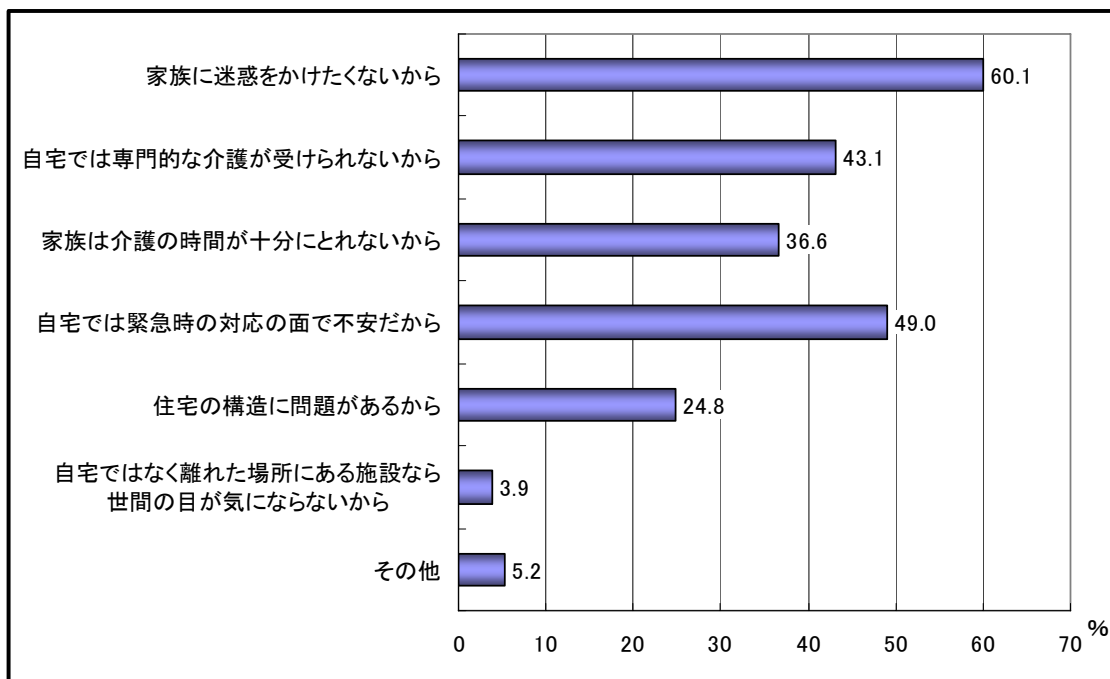
51.3%が「希望しない」と答え、18.4%が「希望する」と回答しています





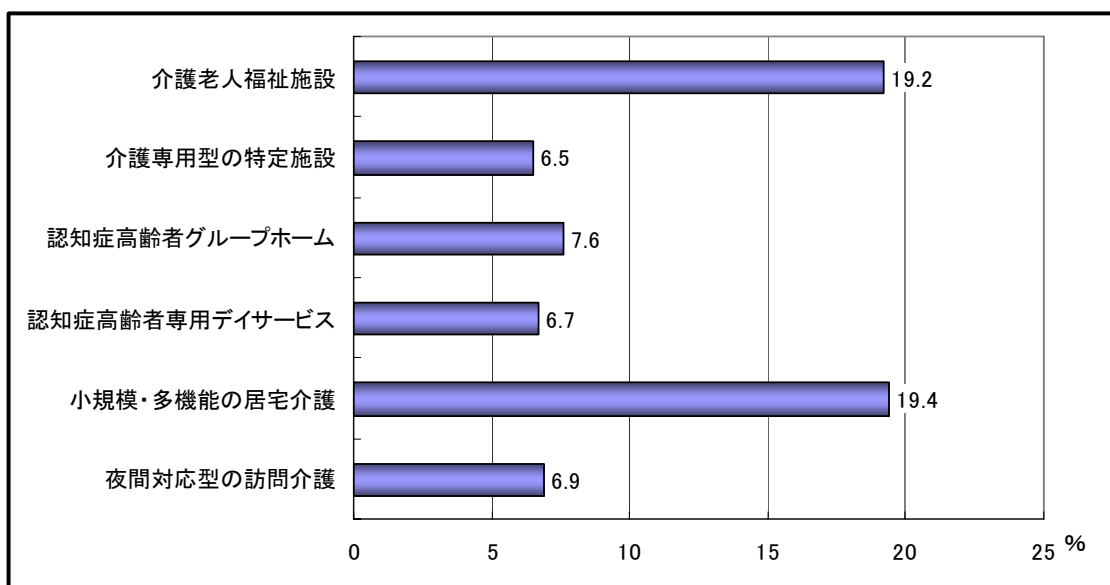
(7) 施設等への入所を希望する理由は何か（複数回答）

「家族に迷惑をかけたくないから」と回答した人が60.1%と最も多く、次いで「自宅では緊急時の対応の面で不安だから」が49.0%となっています。



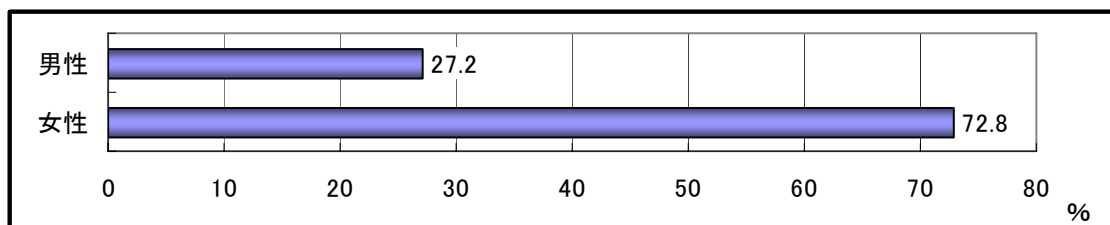
(8) 地域密着型サービスについて（複数回答）

「小規模・多機能型の居宅介護」と、回答した人が19.4%と最も多く、次いで「介護老人福祉施設」が19.2%となっています。



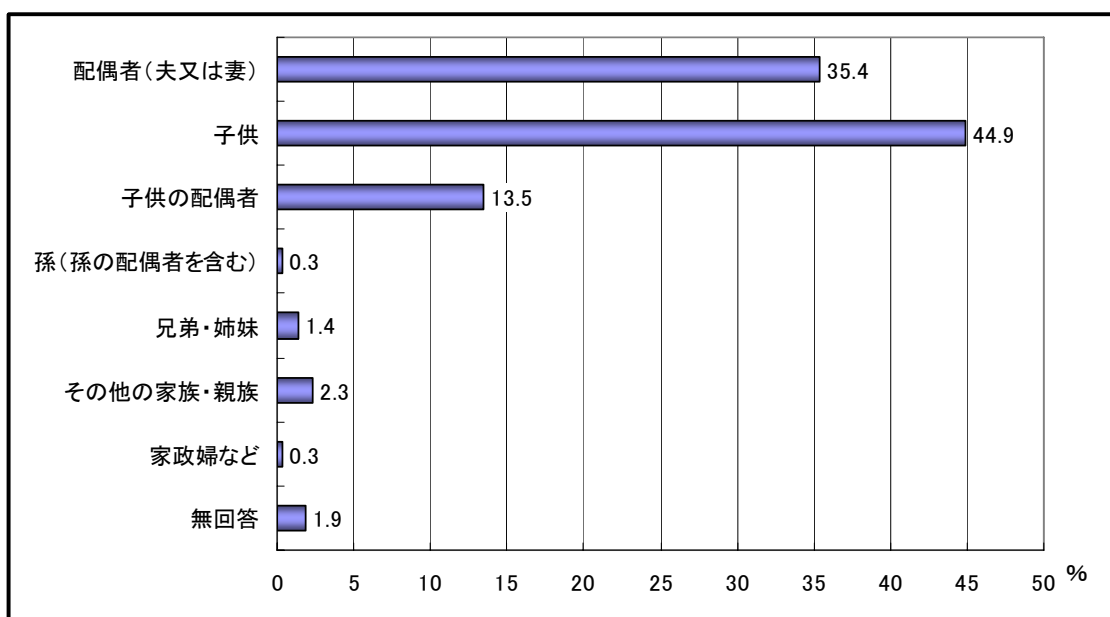
(9) 介護者の性別

72.8%が女性であると回答しており、女性が男性(27.2%)の2.5倍以上の数となっています。



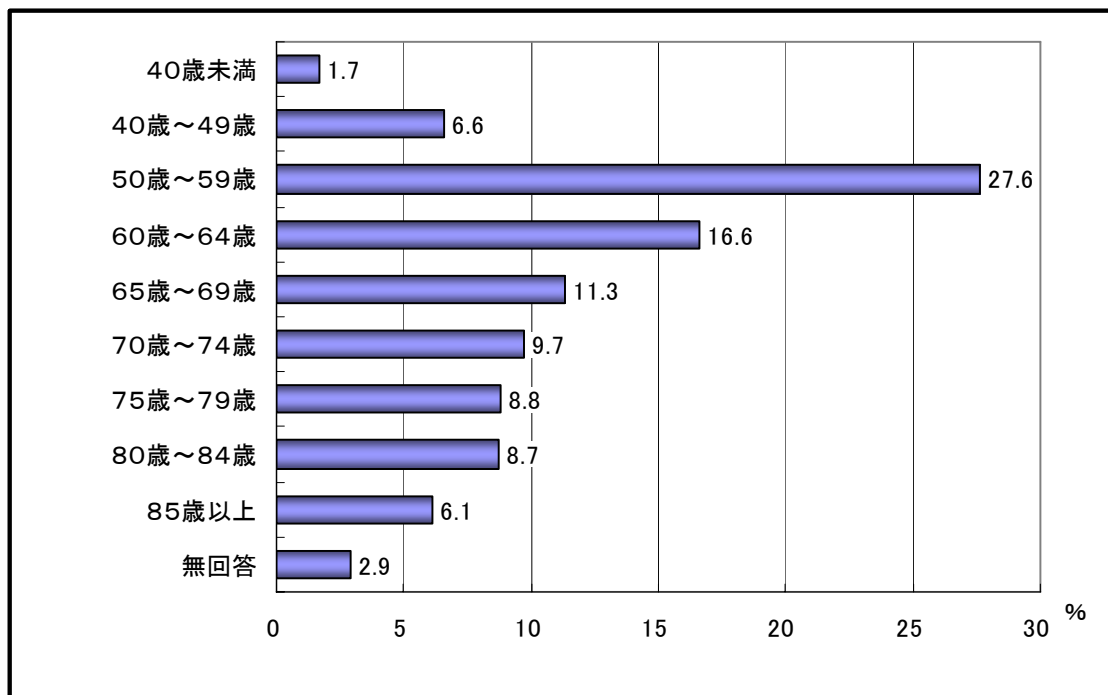
(10) 要介護者等との続柄

35.4%が配偶者、44.9%が子供と回答しており、配偶者と子供を合わせて80.3%となっています。



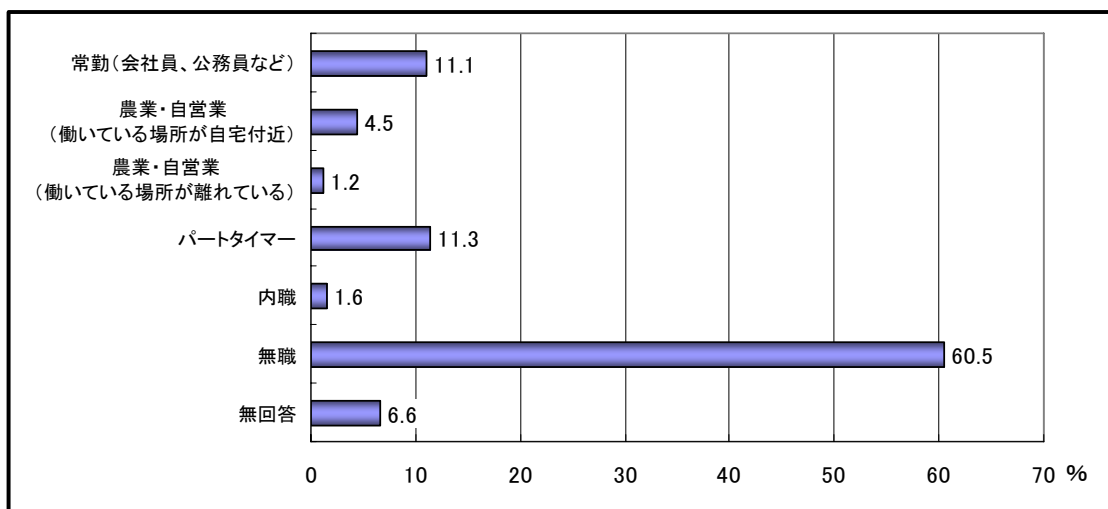
(11) 介護者の年齢

27.6%が50～59歳、16.6%が60～64歳と回答しています。また80～84歳と回答した方が8.7%となっています。



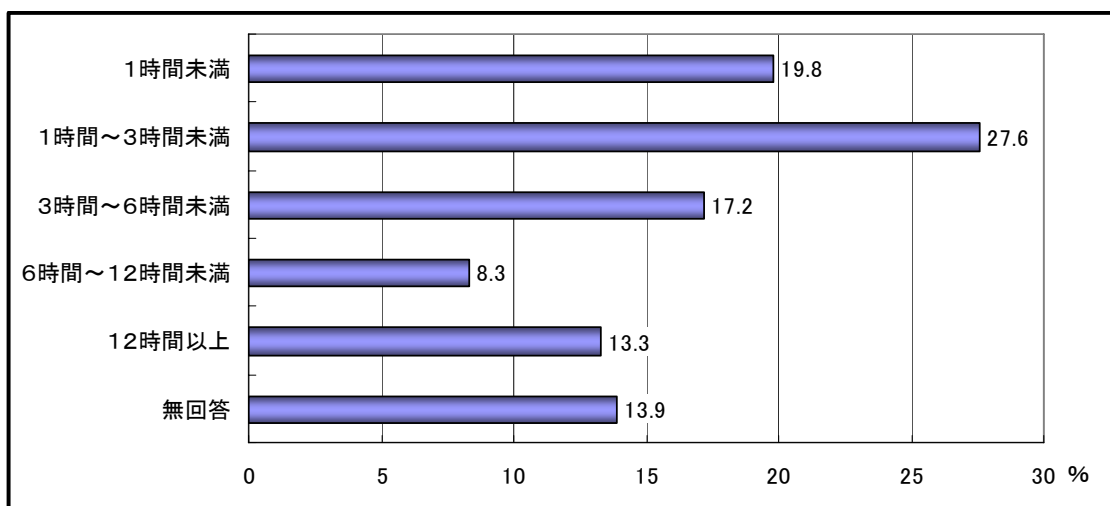
(12) 介護者の仕事の状況

回答者のうち「無職」と回答した人が60.5%と最も多くなっており、次いで「パートタイマー」が11.3%となっています。



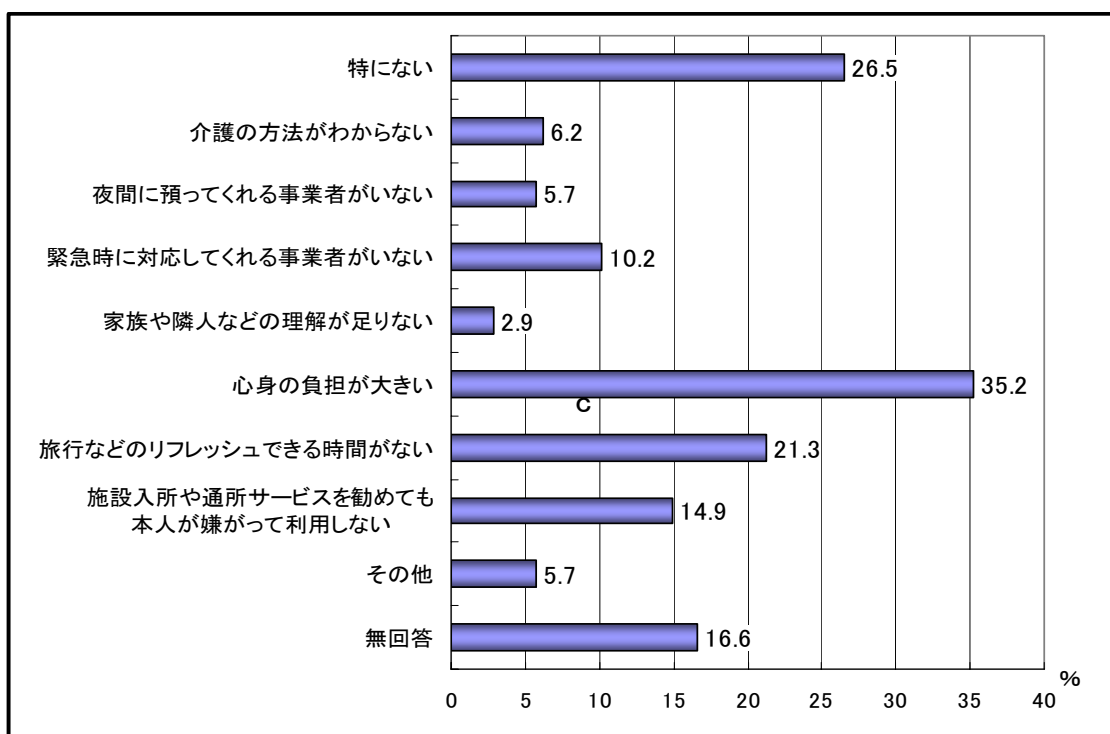
(13) 介護にかけている時間は

「1時間～3時間未満」と回答した人が27.6%と最も多く、「1時間未満」が19.8%、「3時間～6時間未満」が17.2%となっています。



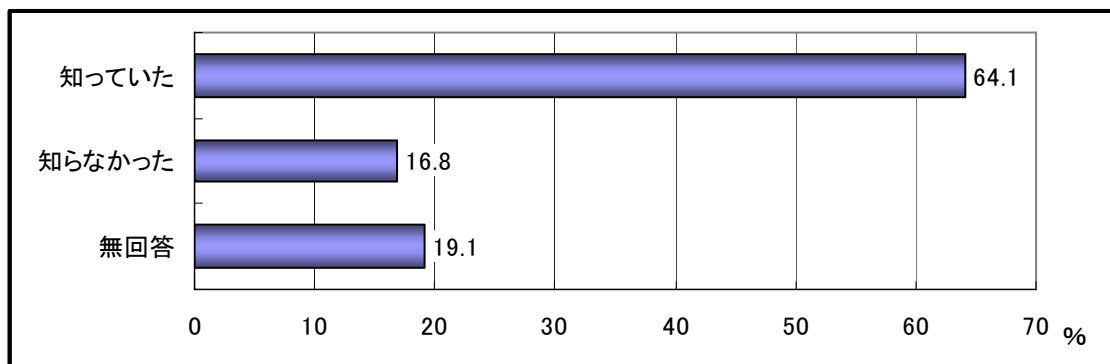
(14) 介護する上で困っていることは（複数回答）

「心身の負担が大きい」と回答した人が35.2%と最も多く、「旅行などのリフレッシュできる時間がない」が21.3%となっています。



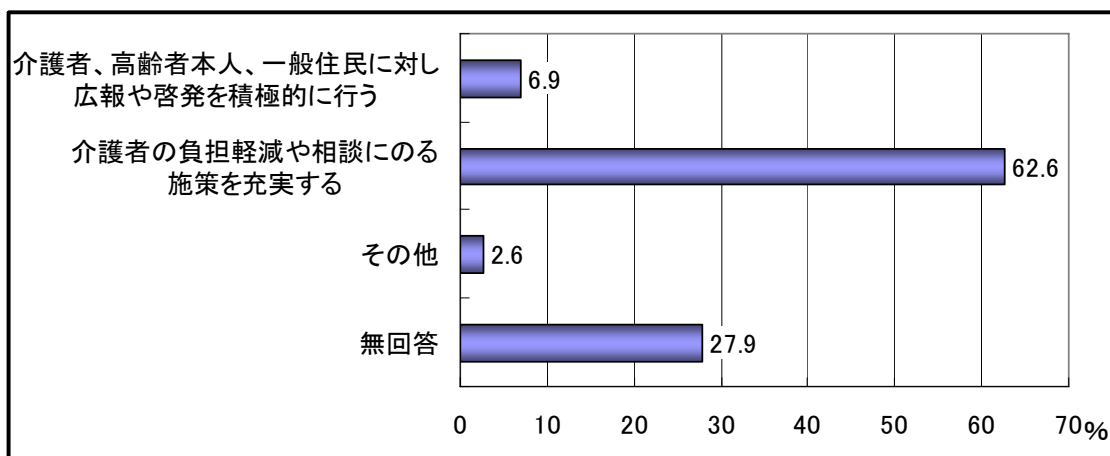
(15) 高齢者虐待について知っていましたか

半数を超える64.1%が「知っていた」と回答しています。



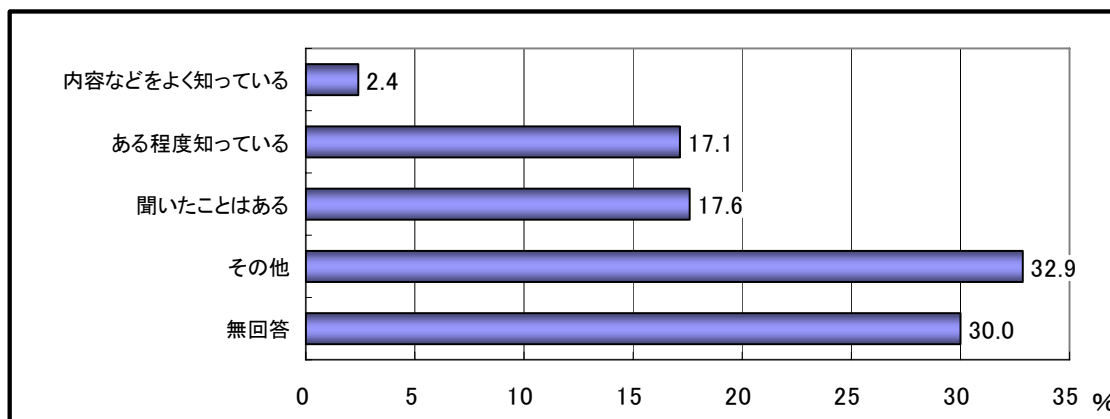
(16) 高齢者虐待を解決するために、何が必要ですか

回答者のうち「介護者の負担軽減や相談にのる施策を充実する」と回答した人が62.6%と最も多くなっています。



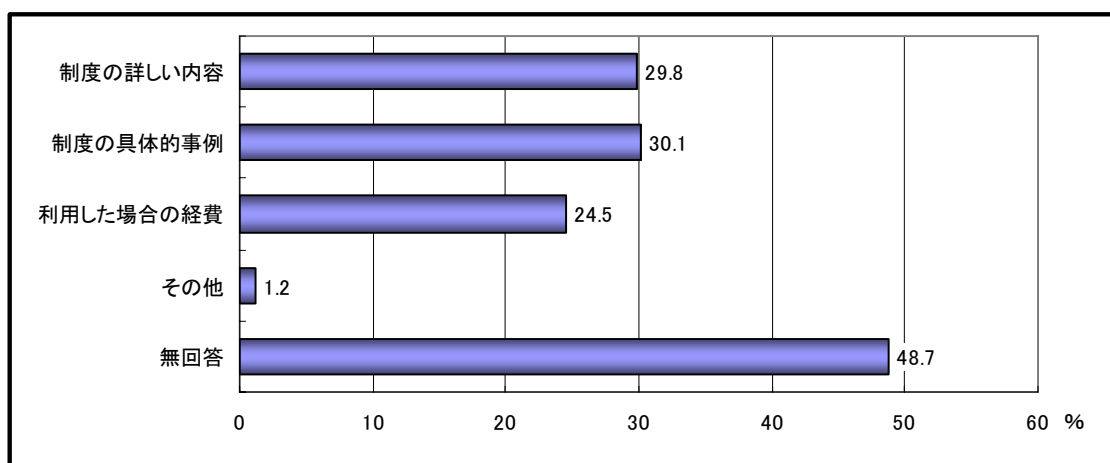
(17) 成年後見制度を知っていますか

「内容などをよく知っている」と回答した人は2.4%であり、「ある程度知っている」と回答した人と合わせると19.5%になります。



(18) 成年後見制度に関してどのような情報があればよいと思いますか（複数回答）

「制度の具体的事例」と回答した人が30.1%、「制度の詳しい内容」と回答した人が29.8%などとなっています。



## 5 高齢者の施設入所（入院）及び受診等状況

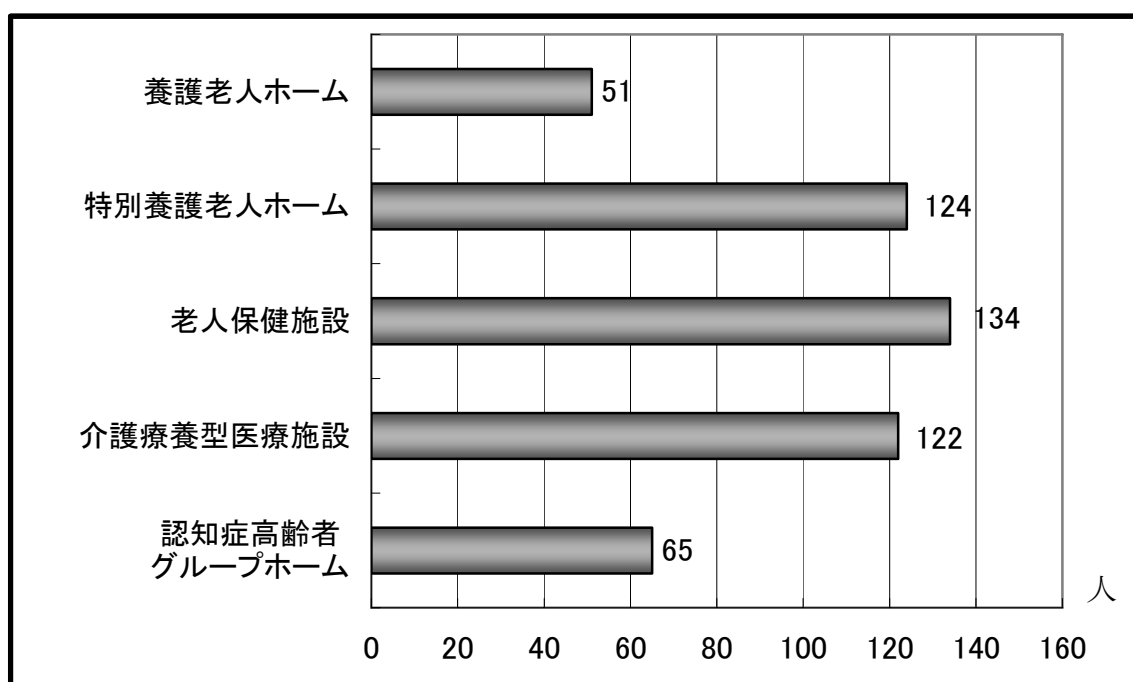
## (1) 施設入所（入院）している高齢者の状況

高齢者が入所（入院）している施設の状況については、「介護療養型医療施設」122名、「特別養護老人ホーム」124名、「養護老人ホーム」51名となっています。

【入所（入院）している施設】

(平成20年9月末)

区 分	入所(入院)者数	割 合
養護老人ホーム	51	10.3
特別養護老人ホーム	124	25.0
老人保健施設	134	27.0
介護療養型医療施設	122	24.6
認知症高齢者 グループホーム	65	13.1
計	496	100.0



※ 高齢・介護グループ資料

(2) 高齢者の診療諸率（医療費3要素）の推移

高齢者の診療諸率の推移を見てみると、「1日当たり診療費」は増減はほとんどありませんが、「1件当たり日数」は増加傾向にあり、このことが医療費の増加をもたらしている一因になっていると思われます。

平成19年度の診療諸率を全道平均と比べてみると、登別市は「1日当たり診療費」と「1件当たり日数」はやや上回っていますが、「1人当たり受診率」では下回っています。

【 高齢者の診療諸率（医療費3要素）の推移 】

区分	入院・外別	1日当たり 診療費（円）	1件当たり 日数	1人当たり 受診率（%）
平成17年	入院	21,350	21.85	122.535
	入院外	8,787	1.92	1,549.162
	合計	14,397	3.33	1,790.074
平成18年	入院	20,860	21.96	131.115
	入院外	8,622	1.87	1,537.787
	合計	14,440	3.39	1,782.813
平成19年	入院	20,703	22.18	130.726
	入院外	8,574	1.84	1,535.533
	合計	14,411	3.39	1,783.910
全道 (平成19年)	入院	22,819	20.32	118.072
	入院外	8,521	1.96	1,596.857
	合計	14,290	3.19	1,847.153

※「1日当たり診療費」

・1年間における老人保健該当の国民健康保険加入者1日当たりの平均費用額を表す。

※「1件当たり日数」

・1年間における老人保健該当の国民健康保険加入者1件当たりの1つの診療に要した平均日数を表す。

※「1人当たり受診率」

・1年間における老人保健該当の国民健康保険加入者1人当たりの受診率を表す。